

行事を振り返って

9月後半から大きな学校行事が続いていました。子どもたちに、chromebook (forms) や作文を通じて感想を募集しました。子どもたちの感想の一部を紹介します。

『命の一本桜プロジェクト』を体験して (児童の感想より) <<NO.32②の続き>>



- 親がいるありがたみ、そして、地震の怖さを改めて知りました。中嶋先生と出会い、一度地震を経験してこのような形でみんなに知ってもらおうと活動をしているのがとてもすごいと思いました。今日知ったことを、私がいろんな人に伝えていって、もっと地震の怖さや親がいるありがたみを多くの人に知ってほしいと思いました。
- 桜の手形を押すときにありがたさを感じました。パワーポイントで震災の様子を描いた絵が出された時、私は、絵で表現するのは描くときも苦しかったと思いました。
- こんなに大胆に絵(命の一本桜)を描いたことがなかったので、とても楽しかったです。私は、「みんなと協力することの大切さ」を学びました。1人だとたった2時間でこんな大きな紙に絵を描き終えるのは無理だけど、全校生がいたからできたのじゃないかなと思いました。
- 修学旅行で、戦争のことは学んだけれど、災害のことをあまり学んでいなかったで、とても良い機会になりました。クレパスで描いていると、中嶋先生に「すごい、天才」などと声をかけていただき、とてもがんばれました。桜を手形で描くとき、絵の具を手塗るときが楽しかったし、気持ちを込めて手形を置けたので良かったです。このような授業をまたしてみたいと思いました。
- 命の一本桜プロジェクトをやって、みんなで協力して一本の桜を描くのがいいなと思いました。学んだことは一本桜を通して、ほくは大震災の教訓を繋げていこうと思いました。
- 当たり前だと思っていた命がただの奇跡にしかないことや、震災で亡くなった人たちは生きたいと思って亡くなっていったから精一杯生きようと思いました。
- 私は阪神淡路大震災のときにまだ生まれてなかったので、実際に震災にあった人からそのことについて教えてもらって、とても良かったです。そして、桜が出来上がった時が一番嬉しかったです。
- 阪神淡路大震災や東日本大震災の悲しい気持ちと辛い気持ちがわかりました。全校生全員でできたことがとても嬉しいです。
- 震災の記憶を繋げられると嬉しいです。
- 一本桜のように根をはって生きるの大切なのだなと思いました。
- 中嶋先生は、阪神淡路大震災でどれだけ悔しい思いをされたかがわかりました。
- 阪神淡路大震災で亡くなった人は、死にたくなくても亡くなってしまふことを学びました。
- 1年中咲く桜ができて嬉しかったし、とても楽しかったです。みんなと協力してやると素敵な作品ができるのだなと思いました。講師の中嶋先生の話(震災の話)を聞いて、親は死ぬ気で子を守っていてすごいなと思いました。私も親になったらそのように子を守りたいなと思いました。
- 講師の先生の話聞いて、僕は自分が思うより阪神淡路大震災が悲惨だったことがわかりました。だから、毎日感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。
- みんなで協力しないとできなかったことだから、みんなで協力しないと人間は生きていけないのだと思いました。
- 今生きていることは当たり前ではないことを学びました。この大切な命を大事にしたいと思いました。改めて親にありがとうの感謝の気持ちを伝えたいなと思いました。(裏面に続く)

- これ（命の一本桜）は、みんなで協力してしないと完成しないと感じました。また、これで、ちょっとでも平和になればいいと思いました。
- 命の大切さです。
- 震災はいつやってくるかわからないので備えておくことが大切だなと感じました。また、親が子供を守っているのが心に残りました。
- 阪神淡路大震災でとても悲惨なことになり、悲しんだ人がいることを、『命の一本桜プロジェクト』でいつまでも忘れないようにしているということが分かりました。
- 私は、震災のときに亡くなってしまった人が本当はまだ生きていたけれど生きられなかったという話を聞いて、家族を大切に自分だけの一つの命も大切にしたいなと思いました。
- 震災のことや命のことを改めて考えさせられました。講師の先生（中嶋先生）の教え子が亡くなったのはとても悲しかったです。今後も、こんなことがなくなるとは限りませんが、防ぐことはできるかもしれないので防災グッズを買おうと思いました。いつ何が起こるかわからない自然災害に対して、気を引き締めようと思いました。最近、台湾の地震もあったので怖いなと思いました。中嶋先生には、これからもがんばってほしいと思いました。
- 地震の被害にあった人のために、命の一本桜をみんなで作りました。僕は、この『命の一本桜プロジェクト』が広まって、多くの人に知ってほしいなと思いました。とてもやりがいを感じました。
- 震災の記憶、命の大切さを学びました。そして、みんなで協力するとすごく大きい一本桜ができることを体験しました。協力って大事なのだと改めて実感しました。そして、震災でどれだけの人が苦しんだか、助からなかった人の思いやそのときのことを中嶋先生が教えてくださって、たくさん学びました。



『命の一本桜プロジェクト』が、いつまでも子どもたちの記憶に残ってくれることを願いながら、計画・実施しました。子どもたちにとって、制作はとても楽しかったと思います。子どもたちの心に、楽しかった思い出とともに、『命の尊さ』や阪神淡路大震災の時のこと、そして、生きてくても生きられなかった人の存在、防災等、大切なことを心に刻んでほしいと思います。自分の命も周りの人の命も大切に生きていってほしいと思います。このような機会をつくってくださった中嶋先生やスタッフの方々にも感謝申し上げます。